（十五日夕刊）
磐城新聞
休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料（雜報欄行五十錢　場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

勞働問題の見方（續）
淺利順四郎談

しかしながら、あらゆるものは辯證法の説明する如く三つの段階を經て發展するものではない、たとへば夜と晝との變化は二段であるあらゆるものゝ變化はむしろ循環的な變化を遂げるものである。またすべてのものは決して急激に變化するものではなくして緩漫なる變化を遂げるものであるたとへば水が水蒸氣となるのはその適例である、マルクス主義は過去の社會現象或ひは歴史現象を説明するためには相當役立つたがしかし未來を決定する一つの原理となり或ひは法則となることは不可能である、過去の歴史によつて未來の歴史を決定することは無謀といはねばならぬ、マルクス主義によると資本主義の發展するにつれて勞働者の生活はます〱悲慘となると説かれてゐるが、實際においては今日の勞働者の生活は段々とよくなりつゝある。また資本主義の發展に伴つて必然的に恐慌が起るといふが實際資本主義自身の調節によつて經濟恐慌はだん〱少くなりつゝあるわれ〱の考へるところによると資本主義組織はその物質的要素としては何ら惡いものを有してはゐないが資本主義の心的要素は惡いこれを換言すれば資本主義組織は惡いものではないがこれを運用する人間の心に惡い傾向が存じてゐるのである故に理想主義的な立場から資本主義の運用をよき方向へとすゝむやうに心がけねばならぬ　今日の資本主義社會において公營事業はあまり理由ではないがわれ〱に必要欠くべからざるもの、即ち衣食住の生産はこれを公營事業とするのが最も理想的であると思はれるそして奢侈品は私有を認めても差支へないと思はれる

マルクスの唯物論はあらゆるものに必然性を認めるが故に理想主義の立場から見れば反動勢力を增長せしめるものとして否定しなければならぬ

われ〱はまたマルクスの如く社會の改造を暴力手段によつて行ふものではなくして合法的な手段によつて行ふものではなくして合法的な手段によつて行はねばならぬ

即ち社會運動の合理化が必要である社會運動としての勞働運用は勞働者の利益をはかるを目的とすると共にまた全社會の發達をはかるための運動でなければならぬ徒らに反抗的な立場から暴力手段に想へることは眞に社會の進化をもたらすものではないあらゆる進化は常に緩漫に行はれるものであるわれ〱はわれ〱の慾望を心の法則即ち理想によつて支配しなければならぬわれ〱の慾望をわれ〱の理想に基いて生かすことによつてのみ、始めて眞の運命がわれ〱の前に開けるのである、われ〱は常に心の法則に從つて理想主義の立場から社會的な正義と進歩のためにすゝまねばならぬ、これにかゝる立場によつてのみ、社會問題勞働問題は合法的に眞に社會の進歩に役立つ運動となるのである（終）

磐城新聞を見て
大垣市　須藤大三郎

脚の病もてる子供の演習を我は思ひて夢に見にけり

霜白き落葉をよせて焚けりといふ中學生の演習あはれ

わが子らの足裏の肉刺をあはれみつゝ焼火箸をば押しあてにけり

霧の中に透りそめたる日の光り心ひそまりて我は待ち居り

磐新顧問
（照合を歡迎す）

（問）同窓であつた一友人を尋ねる毎に、その家の障子が何處もこゝも破れて居るのを見て變な感じを起さしめられます、これは子供のいたづらですから仕方がない事でありませうが、同じ年頃の子供の居る家は皆かうでなく、きちんとして居る處も多いのです、實は私にも生れて三月の子供が居ますので、矢張こんな風になりはせぬかと考へさせられます、これは子供の性質の然らしむる處で餘儀ない事なのでせうか（一女）

（答）子供は變化を喜びます、その中孔からのぞくなども興味の一つです處が家の障子で子供ののぞかれるあたりの孔でもあると喜んで、そこからのぞきますそれがもとゝなつて段々破る場合が多いのです（俗に所謂かんのせいもあるとのことですが）ですからお宅ではこゝに注意し少しの破れでも直に修理なさいそれから切り張り、又は花形などのものなどを張るのも駄目です、その一部だけ全部張替なさるがよいその上注意をこゝにむけさせぬやうそれとなく氣をつけなさい

（問）姉の子は七五三の祝ひですが、姉は身體の都合で出かけられませんので私が連て神詣でをしなくてはならぬのです、處が先月廿六日に伯父が亡くなりました、もう神詣でしても差支へないでせうか實は私より外に伴ひゆくものが居ないのです（みよ子）

伯父は忌二十日服が九十日ですから忌はすでに濟みましたが服はまだかゝつて居ますゆゑ遠慮なさる方がよいとの話です併し事情餘儀ないゆゑ、鳥居をくゞらねば社前に出てよいであらうとの事です、何處にお詣りか知らぬが念の爲にお詣りなさる神社か社務所にお尋ねなさる方がよからうと思ひます

明日の吉凶
舊暦十月二十二日　新暦十一月十六日

▲一白　八方へ手を出す時は一方も滿足にならぬ日▲二黑　期待の相違し易き日氣を落付けあせらぬが吉▲三碧　位置の困まる日口數はなるべく少きがよし▲四緑　信念强ければ次第〱成功に近づき行く日▲五黄　多端の中に座しても動せざれば誤ちなき日▲六白　平和の内に願望成就すべし普請企業何れも吉▲七赤　地味の業は順調に行けど投機には凶なる日▲八白　事の前後せぬ樣に注意して進めば過ちなし▲九紫　小故より意外の變を惹起することある日

講談
血で血を洗ふ（187）
高橋掬太郎創作　布施中八郎揮毫

第三の怪人

流石の第二の怪人もこれにはハタと息詰つた

「やゝッ！」

と叫んで思はず太刀の手を休めた

「さあどうだ、刀を捨てろ刀を捨てゝ温馴しく縛にかゝればよし左もなくば清之助の命はないぞ」

覆面の中の頭分が怪人に向つて威喝した

「む！うむ」

と怪人は唸つた、怪人は此の場の覆面の曲者を全部斬り捨てるにも大した困難でなかつた、併し清之助の命を奪れては何の甲斐もない、曲者の命の百や千にかへ難きは清之助の命であつた

「さあどうだ、刀を捨てるかどうだ」

覆面の頭は迫つた

「いや私の事はた構ひあるなどうせ命のないのは判つてゐる、私に構はずお逃げ召され」

と清之助は抑へつけられらも叫んだ清之助の云ふ通りたとへ此の場で助かつてもどうせ殺しに來たのであるから命を奪ふは知れてゐた併し怪人の方では如何に命は亡きものとするも眼の前で清之助を討たすに忍びなかつた、一刻たりとも清之助の命を延したかつた

「どうだ刀を捨てるか清之助の命を奪ふか二つに一つの返答しろ」

と覆面は叫んだ

「刀を捨てるが厭とあれば此の通りだぞ覺悟をしろ！」

と清之助を抑へた一人が白刄を清之助の胸元へ突きつけて威かした

「む、むッ――」

怪人は絶体絶命となつた

「どうだ刀を捨てるか清之助を刺そうか？」

覆面は苛つて叫んだ

「身共が刀を捨てたなら必ず命を助けるか？」

怪人は念を押した

「たう如何にも清之助の命は助けやう」

と覆面は誓つた、併しそれはあてになることでなかつた

「よし然らば刀を捨てゝ縛を受けやうその代り我を偽るに於てはたとへ兩刀は失ふとも汝等如きホッ葉侍の五十や百は足蹴にかけても蹴み殺すから左樣心得よ」

と怪人は威喝してれいで血刀を前に投げ出した

「それッ！」

と覆面の一人がその刀を拾はふとした時であつた

「わッ！」

といふ鋭き氣合が空を裂いて何處からか飛んで來た一本の手裏劍が捨はふとした覆面の胸元に發止と刺さつた

「やゝッ！」

と一同が驚く間に塀から飛び降りて來たのは又もや天狗の假面を冠つた一人怪人――清之助の前にひらりと立つて

「曳ッ」

と電光石火の早業清之助の胸元へ白刄を突きつけてゐた覆面の一人は血煙立つて打ち倒れた

「あッ！曲者！」と覆面の奴等は狼狽、早くも先きの怪人は投げ出した刀を拾つて斬りまくつた

第三の怪人は清之助を後に庇つて同じく前後に覆面の者を切つて捨てた、三人まで現れた同じ天狗の假面の怪人、その正体は何者か判らない、一人は石出忠太郎昌義かも知れぬがあとの二人は何者であらうか、忠太郎の一團を覗いた怪人もその一人か――清左エ門を討つた怪人も中の一人か？そして討たれた怪人は誰であらうか？

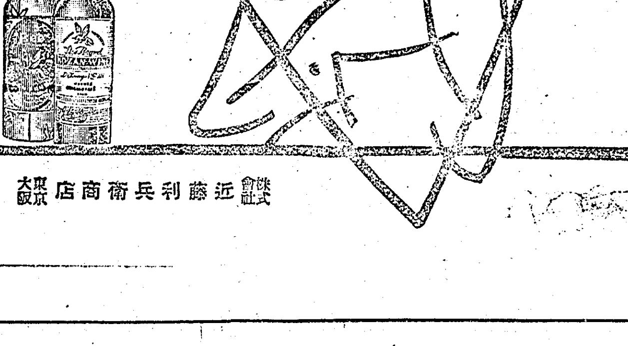
二十名あまりの覆面の一隊は大根を切つて捨てるやうに二人の怪人に斬りまくられて殘るは僅になつてしまつた。

日東のラジオ
最新高級の
ラジオ製造販賣
並に部分品提供
御下命次第店員をお伺ひ致させ懇切御相談に應じます。
平町白銀町
日東商會
電話六五〇番

平町田町通り
磐城病院
電話一一四番

平町紺屋町
藤沼醫院
電話五〇七番

[illegible]
御需めの方は
平白銀町
吉田新聞店へ
電話四十八

蜂ブドー酒
健康禮讃
人生の最大な歡喜は　一家揃つて健康なることであります　美はしき皮膚の精彩と　魅力ある健康と美とを創造する蜂ブドー酒の食前常用は　人間生活を　ヨリ光明へ　ヨリ幸福へと導く唯一の捷徑であります……
「蜂印香竄葡萄酒」といふ名稱を　皆樣のお奬めにより　且つは時勢の推移に鑑み　今後「蜂ブドー酒」と改めます　どうぞ　引續き御愛飲を願ひます

株式會社　近藤利兵衛商店　東京　大阪

金牌一等賞受領（數回）
磐城國平町
草野染工場
電話三四八番
◎徒弟入用
徒弟契約ニ付テハ年明キニ際シ有利ニ御相談申上候

營業品目　絹糸、絹紡績綿糸、染糸、組紐漁網糸、人造絹糸カタン糸、輸出用加工糸眞綿、其他糸物一式
東京市日本橋區通油町
株式會社　藤掛商店
電話浪花三五一番　振替東京三二四〇番
糸界の羅針盤糸紐通報御一報次第直送
小店員募集
十五才以上十七八才迄　五名
小學校卒業程度御希望のお方磐城新聞社御出で下さい。委細面談

懇切迅速勉强は
弊店のモットーであります
磐城銀行御指定
ケーテー洋服店
平町材木町　高野幸一

鐵筋コンクリート
鐵骨組立　土木建築、請負業
和洋建築　合資會社
文化式建築　丸三森川組
設計監督　社長　大森鎮平
東京日本橋南茅場町二〇
電話茅場町66四五二番

夜間診療
胃腸專門
内科　十二指腸虫病
内科部
梅毒專門
淋病　婦人病　皮膚病
外科部
平町南町　松村病院　電話七〇一

外科、耳鼻咽喉科
内科、泌尿器科
X光線科
外科
赤心堂病院
平町字田町
電話四七五

手に殘るは生活の不安と失業の悲哀のみに候
坑夫組合に見切りをつけて 脱退幹部の聲明書

磐城、入山の三大炭礦に今春可成の長期に亘つて連續勃發した勞働爭議事件は各れも爭議團が惡戰苦鬪も甲斐なく大慘敗をなめ此の爭議團に加盟した多數勞働者中最も日本坑夫組合のために努力した數十人は馘首され爭議解決後に於ける此等馘首されたる者の家族等數百名は其の日の糊口にも事欠く大悲慘事を現出した者は未だ記憶に新たな所であるが其の後該爭議に依つて醜惡な内部をさらけだした日本坑夫組合の各支部は組合員の足止め策に努力してゐるも高樓全く覆り昨今の如き最早や何等の威力なき有名無實の組合支部を殘すのみとなつてたが此の組合に踏止まつて孤城落日を守る少數の中にも續々組合を脱退食を求めて口を糊せんとする者が續出してゐる即ち日本坑夫組合磐城支部の幹部として可成りの勢力を有してた木村粂吉氏の如きも次の如き聲明書を發表して組合を脱退したのに徴し見るも如何に坑夫組合の勢力が失墜しつゝあるか尙同人の脱退聲明書は左の如きものである

脱退聲明書

顧れば過去一年有半吾人は組合運動に心血を注ぎ來れり、然るに何ぞ今吾人の手に殘れるものは行詰れる生活の不安と失業の悲哀のみ、吾此の處に至つて自己の生活を度外視したる全ての運動は出來得ざる事を確信す故に吾人は自己生活の現實に立脚し日本坑夫組合並に日本勞農黨を脱退するものなり

右聲明す

十一月八日　木村粂吉

内務省も是認した 平署の警視署長
各種の事件輻湊に見て 今度こそは實現

平警察署は犯罪件數や檢擧數等の凡ゆる警察事故が縣下は勿論殆んど東北六縣中の最高位を占めてゐるのだ常に警視署長の宗望を叫ばれてたり縣當局に於いても最重要警察署として

屢々警視 署長への昇格を計畫されてゐたが豫算の關係と郡山署との振合等の理由から僅に警部署長中での敏腕家を此れに配し今日に至つたが管内の大部は數萬の勞働者を抱擁する炭礦と大漁場を控へてゐるだけに近年急激に擡頭して來た思想團体の激増組合運動の發達は遂に今春未曾有の炭礦爭議事件が勃發し此の取締のためには全縣下六百の警察官を長期に亘つて平署に

應援せし めた程で單なる犯罪檢擧等は兎に角此等勞働運動取締上に就いては警部署長では幾多の支障を生ずるので縣當局でも平署の警視署長は刻下の急務であるとなし伊東知事、別室警察部長等が昇格に努力を續けてゐた結果此の程

內務當局 も平署と郡山署の昇格を是認する事に決定し實際の必要に迫られながら實現の機運に達しなかつた平署の昇格問題も愈々具体化する事となつた

今將に達成の域（七）
小名濱港運動經過

小名濱　小野生

◻結論

◎鐵道問題より、商港問題に繼續して、奔走した本縣當局は更に重大問題の横たはるものがある、遭遇した、それは地元寄附金問題であるが縣當局が地元寄附金に向つても相當苦心して呉れた好意を多とするか、結局五萬圓を下る事が出來ないとの内意であつた、之を聞いた町長は急施町會を開いて附議したのであるが一名の異議者なく五萬圓を承認した三十年以來鐵道に、港灣に、投じた、運動費は實に厖大である而して亦茲に五萬圓と云ふ大枚の金額を出す爲めに開いた、町會は僅に二分間で議了した、その熱心さには驚くであらう

◎斯く熱と血で出來る、兩問題は實に小名濱町の爲めには救主である、吾等の叫びは茲に初めて結實したのである、さりながら此の實現の域に到達したのみで安心が出來ぬ、漁港が完成された今日、又陸上の設備が不完全ではないか、而して商港の修築完成後は從來の手緩き方法では、最早時代遲れである假令ば區劃整理や、水道計劃や、商業上の金融機關や、何や斯やと準備が必要である、此等の附帶事業は今より計劃しなさねばならぬのであるから決して有頂天になつて悦むでのみ居られない、一日も早く完成を祈り而して完成の後は直ちに何事業なり一日の猶豫なく着手出來る樣に遠大の大計を樹てねばならぬのである

◻小名濱商港と近町村との關係

◎小名濱商港の實現は如斯苦心と、勞苦とによつて初めて今日あるに到達したこれ小名濱町の當然取らねばならぬ處置であつて近郷近在に誇りとするに足りないものであることは言ふまでもない、然し此の四五年間の小名濱町民の活動は全く凄い程眞劍であつた此等は當港の改修によつて、將來得る處のものも決して僅少ではないが、亦犧牲として拂つた、物質的方面も尠少でない、而して一段實現の曉には其亨有する範圍は厖大なものであらう、此意味から見ても近接せる町村は、袖手傍觀の時ではあるまいかと思ふのは小名濱町民のみであるまい第三者の立場にある人々より見て必らず思ひ當るものがなくてならぬのである

◎平町の如き尤も其主なるものである、横濱の大をなした謂所のものは東京あつてゞある神戸の大をなした所のものは、大阪あるからである、此筆法で行けば小名濱の澎張に先ち平町か大をなす理屈となる彌が上にも大をなさねばならぬ素質を備へ來たらざるを得ぬ平町民は小名濱港の完成と共に一大活躍の素地を作らねばならぬのではなからうか吾輩は殊に平町民の爲めに考慮を願ひたいと思ふのである

◎平町に次いて、小名濱港の完成と共に發展すべきものは、湯本町である、湯本の過去は平町との提携よろしきを得て、其發展の趨向に思ひを及ばした筈であらう、處が、其方針は遂反對に進みつゝある事に到着した、つまり炭礦の全盛によつて平町と兩し發展すべかりし動機も遂に其機を失し、今や個々別々に其發展の趨向を考ふべき所となつた、恰もよし小名濱商港の實現こそ、平町に先つるによつて其發展は疑ひなきに至つた湯本有識階級にある人々は小名濱と握手して以て其發展の經路を辿らむとして居るとの事を手にした眞にその通りであると吾人も同感である、湯本町にして此意志あらうか永からずして現勢を覆すに至る當となるものゝあるは疑ふの餘地なからう（未完）

炭礦の大問題たる 坑夫長屋の課税
縣の賦課方針につき 關係町村長陳情

湯本町入山採炭株式會社の務部長吉田宗雄氏等が過般來出縣屢々陳情運動した即ち地方税制改正に伴ふ家屋税賦課につき炭坑における坑夫長屋その他の建物に賦課すべきや否やは當初から相當疑問とせられたところであつたが本縣當局は鑛業用建物と見なさず賦課すべきであるといふに意見一致し總てこれ等に賦課する事となつたがその後内務省の解釋は坑夫長屋等は鑛業用建物にして家屋税を課すべきにあらずといふことゝなつたので縣は俄に關係町村に通牒を發し縣税はこれを缺損とし徴收せざることゝなるが炭坑所在地の町村では縣税は兎も角町村付加税も從つて徴收せざることゝなり村財政の上に影響を來す事となるのでこれを如何なる方法によつて救ふべきか縣より補助を交付するか他に課税の方法あらば指示されたいと十四日高木湯本町長は内郷磐崎川部勿來好間赤井の各町村長と共に出縣陳情するところあつた

山代吉宗の 正式裁判
事實の審問

勞働黨石城支部から過般の縣議戰に立候補した平町材木町山代吉宗（三七）及び其選擧事務長同町新町大内昌之助（三七）同郡好間村松島清美（三一）の三名が無資格にて選擧運動行爲をなした選擧違反事件は平區裁判所に於て山代は八十圓外二名は各二十圓の罰金刑に處せられたが之に不服で福島地方裁判所に控訴、その第一回公判は十二日正午から千秋裁判所長係で開廷し事實の審問あつた

暮を眼前に控へ 財界好轉の色
各方面とも人氣よく 平地方景氣來る

此處二、三年來全く沈滯し切つてゐた平町の商街も書入れの年の瀬を前に諒闇明け初めての新年を迎へる今年こそはとばかり力瘤を入れ暮れの大賣り出し準備に取りかかつてゐるため昨今ポツ／＼市中に活氣が漂ひ出して來たやうであり今春の爭議事件や變災騷等に祟られ續けてゐた炭礦方面も需要期に入つてからは漸次好轉し昨今の如きは數年來に見られない活況を添へてゐるから暮の景氣取りも左まで悲觀したものではなく又た米價安に憬ひた農村も十年來の豐作であり漁業方面も書入の鰹、鮪漁が意外の大收獲で僅に鰯秋刀魚等も前年とは比較にならない好況振りを示してゐる狀態で此等各方面共に今年暮れから明春にかけて人氣盛り返しの好況が出現するであらうと豫想されてゐる

殉職技手を 四倉電社葬
非常の盛儀

石城郡四倉町四倉電氣株式會社技手鈴木武雄氏は十日午後一時二十分頃配電線路の檢査を行ふべく單獨にして配電區域なる同郡大浦村字細谷地内の變壓器の檢査をすまして記帳せんとする際誤つて感電し丈餘の電柱より轉落死亡したるが急報に接した會社では係員全部現場に驅け付け醫師と共に應急手當を加へたが遂に蘇生せず死体は四倉署の檢視の後家人が引取つたが會社は在職中の功績に依り十三日社葬を營むたが新妻社長以下多數の會葬あり盛儀であつた

逃げた少年 路頭に迷ふ
警察で說諭

石城郡草野村下神谷百やす養子柏倉英一（一八）は高等小學校を卒業し昨年三月から東京府下日暮里谷中本一三八ブリキ職會川新太郎方の徒弟となりしも將來自分の手職としては見込みがないのでやめやうとすると四年間の食料を支拂はなければならぬといはれ煩悶中本月三日主人から無盡の掛金十圓を渡されたのでそのまゝ拐帶逃走し若松市行人町の質家石山由次郎方其他に立ち寄り小使ひ錢十圓を貰ひ受け仙臺に來り奉公口をさがしたが見當らないとて十二日夜警察に願ひ出でしも所持金五圓あるのでその不心得をさとし養家へ戻らしたといふことである

四倉林野に 野狐の横行
狩獵家大得意

四倉町を去る一里以內の町有林內には雉、山鳥類多く狩獵期節には東京方面からの狩獵客は目をつけて先を競ふて入山するもの多數あつたが町有林整理からは巣をかへて双葉郡川內方面へ遠征する天狗連が增して來たが今年は四倉有林に鳥族は勿論野狐蕃殖せし模樣で毎日一頭位は必ず射止め兎の如きも多く小鳥は一層殖ゑたようであると

春ながになつた 白煉瓦爭議
要求條項を拒絕し 會社切崩しに奔走

石城郡湯本町品川白煉瓦工場の爭議は經報の如く組合側の結束案外固くそれと共に工場側の主張頗る強硬であつた爲め容易に解決しなかつた處十二日午前八時組合側では解雇者全部を復職する事外二項の要求を出して迫つたが全部拒絕されたので非常に憤慨し同夜同町松海館に幹部等會合し種々打合せを爲した一方工場側では罷業團に對し十三日午後一時より全力を擧げて出勤の勸告を爲しつゝあり十四日には二十名の出勤者を見たが未だ百餘名は組合本部の小松原某等と種々策動しつゝある爲め會社でも油斷なく對策を講じ引續き出勤の勸告を爲しつゝある

連結手奇禍
右手指を切斷さる

草野村字下神谷居住平驛連結手阿部新三郎（三七）は昨十四日午前二時頃平驛構內下り入換線で連結作業に從事中誤つて貨車の間に左手を挾まれ左手指を切斷負傷したので直ちに平町南町酒井病院に入院加療中である

從前通りして呉れと 父兄代表が陳情
中等校入試法問題で けふ小學校長會

本郡下各小學校長會は既報の如く今十五日午後一時より平第一校に開催したが磐中唐土、磐女木村兩校長外小學校長三十餘名出席し中等學校入學案の具体的協議を爲したが、一方兒童父兄代表數名は本日午前十時第一第二兩小學校に各校長を歷訪し不安心であるから依然通り入學試驗準備敎育をして貰ひたいと陳述するところあつた

陪審抽籤延期

既報平町陪審法資格候補者抽籤は來る十八日に行れる筈であつたが都合に依り十[illegible]日に延期された

平校訓導出席

本縣師範學校附屬小學校主催の綴方に關する敎員協議會は來る十七日同校に開催されるが平第二小學校よりは訓導長谷川政氏が出席する由

平町人事

▲死亡　字堂の前一、玉彌孫馬目與一　月見町三〇山崎茂男　白銀町十五高橋利枝　新川町三十二高野マツヱ　長橋町九若松牛次

▲出生　新川町六遠藤正夫二女キク子

かみくづ

最近三五〇番の△△さんすつかり消氣返つてゐるが見ッ當もないオーさんの氣をじらすつもりかと聞いたらさうさこんな事で氣がじれるオーさんなら妾も賴母しいわは御馳走樣◆奥樣藝者の異名を頂戴してゐるほどた上品でおらつしやる小清も日ごろのた稽古甲斐あつて何とか流生花宗匠の免狀を得られ櫓になりき之れでスッカリ奥樣の資格が名實共に具備する譯となり、いよ／＼近く足を洗つて原籍姓名とも不詳（差當り今のところ）の某夫人に納まるといふ譯なそうだ

時言

警部が警視に昇格すればとて肩章が替つたのみでは何にもならぬ、要は形式よりも署長その者の質を撰ぶことだ

□

中等入試方法に對し父兄代表から校長會に陳情まじりの希望を奉る、オイ無中になるな、餅は餅屋に委して置くさ

□

坑夫組合脱退者の聲明書に曰く、手に殘れるは生活の不安と失業の悲哀のみ、今にして夢まつたく覺め申候デスト

□

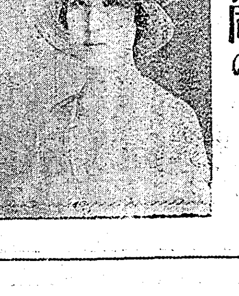
餘りに當然すぎる事實を今にして覺めましたも心細いが、覺めざるものに優ること請合なり

御斷り

小生是れまで平新聞の編輯致し居り候處大いに感ずる所有之自後編輯經營其の他一切關係之無候間此段及謹告候也

十二月十五日　江尻中

天勝天左合同の 魔奇術團



明日より 平劇場

三井呉服店の 陳列會於新館

十一月一日ヨリ

◈今秋流行新製品
一ショール
一着尺モスリン
一友仙モスリン
商品豊富

◈店内には紅葉と自慢の菊花京人形とアメリカ人形陳列是非御來觀の程奉希上候

◈たつとめ特價品
▲白時兩毛　一反物　九十錢
▲珍柄ネル　一反物　一圓二十錢
▲白キャラコ足袋　二十錢
▲黒朱子足袋　三十錢
▲鬼コール足袋　二十八錢

平町三町目　三井呉服店　電話三十八番

平町紺屋町 吉田眼科醫院

時計の進歩！遂に 振動不感の 腕用時計 を生めり

打付けてもたゝき付けても硝子も毀れず狂はない
側はクローム側にて小形です

TRADE MARK NIPPONOPHONE

平町四丁目　會田時計店　電話三六三